

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌誌上大会選

佳作 臣永 悦子

庭石になりし碾ひき白遠き日に祖母ときな粉を

ひきし思い出

佳作 吉形 和恵

寒空に皆既月食影絵めく宇宙の神秘を一身に

浴ぶ

佳作 金本ひろみ

うしろ髪目立ちて薄くなりたるを言わで柔ら

に夫の肩揉む

佳作 宮本久美子

初めての波にはしやく曾孫みま瑞貴背きにひろびろ

と海はかがやく

佳作 佐野 幸子

すつきりと目ざめて朝のコーヒーを君と飲み

たし眠られぬ夜

佳作 黒部 君代

春の陽の温もり添えて孫の背に巢立つ言葉の

幾つか探す

佳作 五島 秀子

絵画展に懐かしき名をふと見つけ胸の埋れ火

チクリと痛い

到来の鮎姿ずし笹の上

瀬藤 豊子

螢火や神の沈黙太古より

陶久 晴義

白朝顔足を止めるほどに咲き

工藤千鶴子

朝顔の種も蒔かぬに花咲かせ

西條 佳恵

こうのとりに今日も遠見の四葩はかな

萩原 陽子

目覚しの蟬も昼間は昼寝かな

張本 雅宣

駄菓子屋のおしゃべり婆や水中花

車田マサ子

京の辻もらう団扇に鉾の柄

吉崎 晶子

槌音の炎昼刻む村鍛冶屋

奥田 蒼朗

川柳

阿南川柳会 鈴木レイ子選

グラマーが入り湯の高ぐつと増え

多田紀久代

パワー全開フルマラソンを走る古希

さつま浪漫

子宝へ効くとある湯へ老いふたり

高木 旬笑

太陽を水平線が持ち上げる

原 公美子

曲線の人生となり苦勞する

佐野 智子

若人のパワーに老いがちぢこまり

鈴木レイ子

一般応募

ジーンズの穴もファッション若い肌

島尾美津子

相方がひとりふたりと消えて盆

仁井 信子

免許返納白紙になった予定表

武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

京都大原三千院

昊天初夏入山門

昊天の初夏 山門に入り

瞻仰杉群歩藪園

杉群を瞻仰し 藪園に歩す

名利佛堂幽寂極

名利の仏堂 幽寂の極

遠來賽客拜三尊

遠來の賽客 三尊を拜す

高橋 静雄

追懷

月輪白兔憶頻生

月輪の白兔 憶頻りに生じ 大地 和子

幼稚枕邊優母聲

幼稚の枕邊母聲 優し

半百不忘三五夜

半百忘れず 三五の夜

玲瓏同舊滿秋城

玲瓏旧に同じく 秋城に満つ

※半百：五十年 三五夜：十五夜 秋城：秋の町

西日本豪雨被害復興を禱る

激甚被災漸次弘

激甚の被災 漸次に弘がり 市田 嘉則

犠牲二百更加増

犠牲は二百 更に加増

文明不及自然怒

文明は及ばず自然の怒りに

連日炎威妨復興

連日の炎威は復興を妨ぐ

俳句

阿南市俳句連合会選

繁木 良子

外国の夏の遍路に再会す